



連 鶴

〈教育目標〉

学び
きたえ
思いやる子

H 2 2 . 6 . 1

心の一等賞

運動会が終わった翌週の火曜日、胸の名札に金色の「心の一等賞」を付けている何人もの子どもたちに出会う。林（前）校長が考案した「自分なりに頑張れた運動会」ができたら自分を自分で褒めてやる「心の一等賞」。それを実感した子どもたちが何人もいることに喜びを感じた。



「至高体験」という言葉がある。「至高体験」は、自分の生きている意味を実感できた時に感ずる。自分のやったことに人々が大喜びしたり、また、そのように自分が感じたりしたときが至高体験の時である。自分が生きていてよかったと実感するとき、人は「心を躍らせ」自分の活力を最高レベルにまで高めるといふ。

晴天のもと、一学期の大きな行事である「運動会」が終了した。

見る人によってその評価はいろいろであろうと思う。

しかし、こうした行事には必ず感激することに出合う。一人一人が懸命に心を合わせ演技する姿、精一杯走る姿、大きな声で応援する姿。そして、それに向けて昼休みや放課後に自主的に練習する姿。

終わった今、これらの姿、そしてそれによって持たされた知的刺激は、余韻となって私の心に大きな感動を残してくれている。

この「運動会」で、間違いなくすべての子どもが「至高体験」を味わったに違いない。

子どもたちの胸の「心の一等賞」が、それを物語っていると思う。

学び成長していく子どもたちにとって大切なのは、この「活力」であると考えている。自分の生きている意味を実感し、何かを成し遂げたときの成就感が体験されたとき、人の活力は最高となる。やればできるという充実感と成し遂げた喜びをもっともっと体験させていきたいと思っている。

とはいえ、このような舞台を整えてくださり、そして、心からの声援と拍手を送ってくださった保護者のみなさんや地域の皆様の支えなくして成し遂げることはできなかったと思う。心から感謝申し上げたい。